

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

理学研究科	<p>修士課程では、生命科学の急速な進展に柔軟に対応するべく、分子科学・生物科学の視点から自然科学を探究することにより、自然科学に関する幅広い知識と技術を修得し、生命科学に対する総合的な解析力、思考能力を養うカリキュラムを編成しています。</p> <p>博士後期課程では、分子科学・生物科学の視点から自然科学をより深く探究することが出来るように、自然科学に関する幅広い、より高度な知識と技術に基づく正確な判断力と緻密な思考力を修得し、先端・学際分野での独創的研究を立案・推進する能力を養うカリキュラムを編成しています。</p>
分子科学専攻	<p>分子科学専攻修士課程では、物理的、化学的計測・解析を行い、機能性物質の設計、合成、機能評価技術を身に付けさせるとともに、学会、研究会等における発表能力を養うため、以下のカリキュラムを設定します。①高度な専門知識を教授する講義科目の開講、②専門技術修得のための講座単位の少人数指導による特別研究の遂行、③考察力、コミュニケーション能力の育成のための講座単位の少人数での輪講と、専攻を超えた研究科単位での公開発表会の実施。</p> <p>分子科学専攻博士後期課程では、物理的、化学的計測、解析技術の開発・改良ができる能力、機能性化合物の設計、合成法の開発・改良ができる能力を身に付けさせるとともに、研究成果を英文論文として国内外の学会で発表する能力を養うため、以下のカリキュラムを設定します。①高度な研究技法を修得し、その改良、開発を行うことの出来る力を養うための少人数指導による特別研究の遂行、②コミュニケーション能力、発表能力、課題設定能力の育成のための講座単位の少人数での輪講と、専攻を超えた研究科単位での公開発表会の実施。</p>
生物学専攻	<p>生物学専攻修士課程では、生命科学の様々な事象を解明する能力を備え、必要な基本的実験技術を修得し、研究計画に基づいて研究を遂行する能力を身に付けさせるとともに、学会等における発表能力を養うため、以下のカリキュラムを設定します。①最先端分野の専門知識や研究技能を教授する講義科目の開講、②専門技術修得のための講座単位の少人数指導を基にした特別研究の遂行、③考察力、コミュニケーション能力の育成に向けた講座単位の少人数での輪講と、専攻を超えた研究科単位での公開発表会の実施。</p> <p>生物学専攻博士後期課程では、生命現象を分子レベルで解明するための専門的知識と研究技能を備え、研究計画を立案、自ら遂行できる能力を修得させ、研究成果を英文論文として発表できる能力、国際的なコミュニケーション能力を養うため、以下のカリキュラムを設定します。①最先端の専門知識の教授、②高度な研究技法修得のための少人数指導による特別研究の遂行、③研究成果の発表能力、課題設定能力の育成に向けた少人数での輪講と専攻を超えた研究科単位での公開発表会の実施。</p>

ディプロマポリシー（学位授与方針）

理学研究科	<p>修士課程では、多彩な自然現象、多様な物質の挙動、様々な生命現象を解明するための物理学、化学、生物科学の基礎知識と実験技術を修得し、活用する応用力を身に付けていることを重視します。そのため、以下の能力の修得を学位授与の方針とします。<u>①自然科学の基本原理解、それを基盤とした測定・解析技術(SS1)、②基礎知識と実験技術を駆使した、自然現象の正確な判断、新たな本質的原理を抽出する緻密な思考力、さらに展開する応用力(SS2)、③研究成果を社会に向けて発表できる能力(SS3)。</u></p> <p>博士後期課程では、多彩な自然現象、多様な物質の挙動、様々な生命現象を解明するための物理学、化学、生物科学の高度な知識と実験技術を修得し、活用、展開する応用力を身に付けていることを重視します。そのため、以下の能力の修得を学位授与の方針とします。<u>①知識と実験技術を駆使した、自然現象の正確な判断、新たな本質的原理を抽出する緻密な思考力、さらに展開する応用力(SH1)、②自立した研究計画の立案とその研究遂行能力(SH2)、③国際的なコミュニケーション能力を有し、研究成果を英文論文として世界に発信できる能力(SH3)。</u></p>
分子科学専攻	<p>修士課程では、分子及び分子集合体の構造や性質を解析できる能力を持ち、様々な現象に物理的視点、化学的視点から取り組んでいくことができる力を身に付けていることを重視します。そのため、以下の能力の修得を学位授与の方針とします。<u>①物理的、化学的原理に基づく計測技術や解析力(MS1)、②物質の機能評価と新規化合物の合成ができる基本的実験技術力(MS2)、③研究成果を学会、研究会等を通じて社会に向けて発表できる能力(MS3)。</u></p> <p>博士後期課程では、分子及び分子集合体の構造や性質を解析し、その設計に結び付けることのできる能力を持ち、自然現象、生命現象を物理的視点、化学的視点から解明していく力を身に付けていることを重視します。そのため、以下の能力の修得を学位授与の方針とします。<u>①様々な自然現象、生命現象を解明していくために必要な計測技術と解析方法を開発・改良し、これを用いて本質的原理を導き出す事のできる力(DS1)、②機能性化合物の設計、合成法の開発・改良ができる能力(DS2)、③国際的なコミュニケーション能力を持ち、研究成果を英文論文として国内外の学会に発表できる能力(DS3)。</u></p>
生物科学専攻	<p>修士課程では、生命科学における様々な事象を解析して、その基盤の分子メカニズムを解明し、成果を社会に向けて発信できる能力を身に付けていることを重視します。そのため、以下の能力の修得を学位授与の方針とします。<u>①幅広い生命科学現象を解析する研究に必要な基本的実験技術(MB1)、②ひとつの事象から本質的原理を抽出できる能力(MB2)、③研究成果を学会、研究会等を通じて社会に向けて発表できる能力(MB3)。</u></p> <p>博士後期課程では、生命科学における様々な事象を解析して、その基盤の分子メカニズムを解明し、さらに大きな研究へと発展させていくとともに、その成果を国際的に発表できる能力を身に付けていることを重視します。そのため、以下の能力の修得を学位授与の方針とします。<u>①幅広い生命現象を解析する高度な研究技能(DB1)、②ひとつの事象から本質的原理を抽出できる能力(DB2)、③研究計画の立案、自立した研究遂行能力(DB3)、④国際的なコミュニケーション能力を有し、研究成果を英文論文として世界に発信できる能力(DB4)。</u></p>

※科目シラバスの「授業の目的」に記載されている番号は、ディプロマポリシーの関連番号です。